

●書く側に立ってみて、休刊なしに『日本の廃道』を続けられてきた編集部の熱意に驚かずにいられて良かったです。一回限りで特別に関心のある廃道を寄稿するのはワケが違いますから。どこの馬の骨とも分からない私の寄稿を、快諾して下さいありがとうございました。

「あの～、寄稿ってどんな風にしたら良いんですか？」

「あー、特に決まりはないですよ」「発表の場をお手伝いできれば、そういうスタンスです」

「えっ？、あ、はい。」（ずいぶんテキトーなんだなあ、こんな感じでいいのかな～）

あれこれ指定されると思っていたのに、本当に各自の意志に任せる自由形式でした。

もちろん、内容はテキトーでは駄目ですが、寄稿する意志が湧き上がった時点で、相応の中身も伴ってくるんじゃないでしょうか。

そんなわけで、難しく考える必要は全くないようです、本当に。

全国各地、各自の意志で、廃道の、魅力を伝え、姿を残して、いきませんか？（北村）

●初めてこのようなレポートを作成しました。実は私、本を読むのが大嫌いだったんです。

でも、山の道を開設して以来、図書館へ資料を探しに何度も行っているうちにいつの間にか本が大好きになりました。不思議なものですね。

そろそろ探索には絶好の季節となります。どこに行こうか地形図と睨めっこ中です(笑)（のぶっち）

●今月は執筆の時間を充分にとれず、お休みを頂戴しました。

しかし、読み応え十分の寄稿が2本もある今号は、私の抜けた穴を埋め固めた上に、さらに豪華な道の駅を建設するくらい余裕があると思ったので、あまり心配はしておりません。

近々ある廃道の仕事で生まれて初めて飛行機に乗る予定で、既に舞い上がっているヨッキれんでした。（ヨ）

●本誌9月号で「万世大路・大滝宿」を取り上げましたが、

現在は「万世大路・大平宿」について調査を進めております。

非常に資料が少ないため遅延しておりますが、なんとか住宅地図を再現できそうです。

でもまだ少し、時間が掛かりそうな気配。（つ）